

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人 清友会		
事業所名	グループホーム にこやか 若宮		
所在地	愛知県犬山市裏ノ門45番地		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町村受理日	令和7年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393400128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和7年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・クリニック併設のため医療への体制や緊急時の応援体制は速やかにできており、感染予防対策の徹底にて入居者様の新型コロナウイルス陽性は発生していない。
 ・法人理念「絆～人と人とのつながり～を大切に」に基づいて、地域とのつながりを大切にし入居者様、ご家族様や職員同士の接遇の向上に取り組んでいます。・当施設は入居者の平均年齢が92歳と高齢のため、委託業者と食事内容について毎月一回会議行いイベント食として、行事や季節に合わせた食事の提供に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、食事については外部業者を活用しながら提供が行われているが、食事の提供方法や内容の見直しが行われており、外部業者を別の業者に変え、食事面での改善が行われている。日常的な食事の提供の他にも、外部業者との連携を行いながら行事食等の機会を増やしており、利用者の楽しみにつなげている。医療面での支援については、当ホームが医療機関に併設していることで、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応が行われていることで、身体状態の重い方もホームでの生活を継続している。2名の管理者のうち1名は看護師でもあり、協力医(院長)との連携や職員へのフォローも行われており、利用者や家族の安心感にもつながっている。外部の方との連携についても、状況を見ながら段階的に制限を緩和しており、家族との面会等、利用者との交流の機会をつくっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・スタッフルーム、共同生活場に提示を行い、職員が常に意識できるようにしており、理念に基づいた支援を心がけている。	ホームの基本理念を職員間で共有できるように、管理者からの働きかけも行いながら理念をホーム内に掲示しており、日常の支援を通じた実践につなげている。また、職員間で自己評価を通じた振り返りも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・新型コロナウイルス感染予防のため、現在ボランティアなど外部(地域)の交流を中止している。	感染症問題が長期化していることで地域の方との交流が困難な状況が続いているが、運営母体でもある医療機関が地域に根付いた医療機関でもあり、地域の方には知られた存在でもある。中学生の職場体験の受け入れを行う等、徐々に交流を再開している。	地域の方との交流については、徐々に交流を再開している段階でもあり、地域の方との交流に関して、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・新型コロナウイルス感染予防のため外部(地域)の行事を中止している。書面での運営推進会議にて意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・定期的に会議を行っている。施設の状況説明や福祉制度などに関する情報交換を行ったり、頂いた意見を参考に運営改善に取り組んでいる。	会議については、対面方式で行われており、ホームの状況を記載した資料を用意し、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みを継続している。市職員の参加も得られており、定期的な情報交換等につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・運営推進会議資料を配布させて頂き、意見を頂いております。事故報告や不明な点などは、市の窓口、電話などで相談し連携を図っている。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、運営法人の関連事業所を通じても行われており、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、市の介護相談員の訪問も再開しており、情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・全職員に抑制しないケアを周知徹底するために指針を掲示、内部での身体拘束研修を年2回実施し、意識の向上に取り組んでいます。また、身体拘束委員会があり、代表者も参加している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動ができるように、職員間での見守りが行われている。運営法人で行われている「安全委員会」を通じた身体拘束に関する検討が行われており、職員への周知等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・常に意識し防止に努めている。また、ミーティングで不適切なケアについて話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・現在、制度を活用している利用者はいない。熟知している職員と知識が浅い職員との差がある。職員の知識を深め、必要な制度があれば、積極的に関係者と相談して活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・管理者より「運営事項説明書」「契約書」「個人情報利用同意書」などについて詳しく説明を行い、理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・意見、要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。電話での問い合わせや、ご家族様が洗濯物、オムツを持参された際に必ず声をかけさせて頂き、意見・要望をお聞きし職員間で共有、運営に反映できるように努めている。	家族との交流については、現状で可能な範囲で行われている。ホームでは管理者が2名配置していることで、利用者や家族からの要望に随時の対応にもつながっている。また、年2回のホーム便りの他にもLINE等を活用した情報発信も行われている。	ホームでは制限の緩和が行われているが、家族との交流が限られた範囲でもあるため、今後に向けて、行事等を通じた交流の機会が増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・月1回の安全委員会では、代表者と管理者で意見交換を行っている。管理者はミーティング、個人面談などで機会を設け反映させている。	ホームでは、管理者2名の体制を継続しており、役割分担を行いながら職員との意見交換等を行い、職員からの意見等をホームの運営への反映につなげている。また、職員との面談の機会をつくり、職員一人ひとりの把握も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・スタッフ全員が自己目標持ち、年2回自己評価を行い定期的に意見を話しやすい、働きやすい環境の提供に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・認知症実践者研修を受ける機会を設けている。代表者は、育成のために研修参加するように進めている。今年度、認知症実践者研修に二名参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・職員が他の事業所の方と接する事がないため、出来ていない。今後、県や市が主催する研修会に参加する機会に、他事業所職員との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居前に見学に来て頂き、不安な事、要望をお伺いしサービスの提供に繋げている。入居後も個々に沿ったコミュニケーションを図り、信頼関係を築くように絶えず努力している。また、入居者同士の会話も傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・意見、要望をお伺いし話し合っている。ご家族様の思いや現状を把握することによって、信頼関係が築けるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・ご本人、ご家族様の思いを確認し、必要としていることを優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・生活を友のする家族という意識を心がけている。尊重し合い、共に過ごし支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・居室に思い出の物や写真を飾っていただき、家族を意識できるよう努めている。 ・ご家族様との情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・コロナ感染状況、面会人数により場所を考慮し予約面会実施している。ご家族様と一緒に入居前前から行かれていた床屋に行かれていた方もいる。	感染症問題が続いているが、利用者の中には、入居前からの関係の方が併設している医療機関に受診する等、利用者との交流の機会もつづられている。家族との外出については制限の緩和が行われており、身内の方と過ごす機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・レクリエーションに出来る限り参加して頂き、職員が間に入りコミュニケーションを図れるようにしている。また、トラブルは事前に防ぐ事ができるように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・ほとんど場合、退所後の関係はなくなってしまいが、ご家族様をお見かけした際は、声を掛けさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご本人、ご家族様からの細かな情報収集 ・利用者との日々の関りで表情や言動などを把握し、希望や意向を汲みとる努めている。	職員間で利用者に関する意向等の把握を行い、申し送り等を通じて、職員間での共有につなげている。また、職員間でカンファレンスの時間をつくり、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・ご本人、ご家族様の細かな情報収集を行い、全職員で把握し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々のケアでの気づきなどを介護記録し、全職員が現状把握出来るように努めている。 ・月1回のミーティングで利用者の変化・支援について話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・定期的や必要に応じて適時モニタリングを行い、介護計画の作成をしている。	介護計画については、利用者の状態変化等にも合わせて、3か月～1年での見直しが行われている。日常的に職員間で情報交換等を行いながら利用者に関する変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の様子を具体的に介護記録に記載し、情報を共有している。また、職員間での申し送りノートにも記載し実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・個々の状況やニーズに応じた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・クリニック併設のため、医師、看護師と連携し利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	運営母体の医療機関と併設していることで、協力医(院長)による医療面での支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた受診や入院等の対応も行われている。また、管理者のうち1名が看護師でもあり、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・体調の変化や緊急時など看護師に相談し、情報を共有している。必要時には迅速に受診が行われるよう連携を図っている。クリニック併設のため夜間も看護師に連絡、相談する体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・管理者は病院関係者との連携を密にとり、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・支援できるように努めている。	身体状態の重い方も生活を継続できるように支援が行われており、医療面での連携を行いながら、利用者の看取り支援も行われている。母体の医療機関への入院対応も可能であり、利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・ミーティングを活用し、緊急時の対応を実践した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・防災自主検査を毎月1回実施している。 ・避難訓練の実施(年2回)	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設している医療機関と連携した訓練も実施し、職員間の連携につなげている。また、ホーム建物内に備蓄品を確保する取り組みも行われている。	ホーム建物構造上、利用者の避難誘導に困難が予測される。併設している医療機関との連携をはじめ、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・入居者の尊厳ある暮らしができるよう、個々に合わせた声かけ、対応をミーティングで話し合い支援している。	ホーム名でもある「にこやか」から考えた理念には、職員による利用者への対応等にもつながる内容も掲げられており、管理者からも職員への周知の働きかけも行われている。また、利用者のおしゃれへの配慮も行われており、利用者への尊重につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・選択しを提案、表情の観察など利用者個々に応じた言葉かけや対応で自己決定をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・1日の生活リズムは利用者個々のペースを大切にしている。行動の制限や強要せず、気持ちを尊重し、可能な限り個別性の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・着る服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・季節を感じられる、美味しく、楽しく食事ができるように利用者のご意見や希望を聞きイベント食を月二回行っている。	ホームでは、食事に関する見直しが行われており、食事内容の改善を進めると共に行事食等の取り組みを増やしている、利用者の楽しみの機会につなげている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・メニューは栄養士が作成し、カロリーの管理を行っている。食事形態は個々に合っているものを見極めながら提供している。食事量、排便チェック、月1回の体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後、声かけを行い口腔ケアをしっかりと行っている。義歯に関しては、夕食後ポリデント洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・利用者個々の排泄パターンを把握するため情報共有を行い、個々にあった声かけや誘導を行っている。	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、トイレの出入り口の工夫や、医師、看護師と連携した排泄に関する医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分摂取量をチェックし適度な運動を促しているが、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	・入浴予定表はあるが、利用者の体調や意思により柔軟に対応している。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、利用者の意向等にも配慮した対応も行われている。浴室に特殊浴槽の設置が行われており、利用者の身体状態に合わせた支援も行われている。また、天神ユニットの浴室の改装工事も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・空調や室温に配慮を行い、個室で安心して気持ちよく寝れるように支援している。日中の活動を充実させることで、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬剤の用法、用量、注意点理解し服薬支援できるように薬剤情報をファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・レクリエーション、散歩などで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・ご家族様からの支援要請への対応や地域資源の活用の支援を心がけている。	感染症問題が落ち着いてきたこともあり、段階的に外出に関する制限の緩和が行われており、季節や天候等にも合わせて、ホームの近隣を散歩する機会をつくっている。また、家族との外出についても徐々に再開している段階でもある。	利用者の重度化もあり、利用者の外出の機会が限られた範囲となっている。今後に向けて、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・利用者は厳禁を所持していない。ご家族様から預り金という名目でお金を預かっており、必要時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・携帯電話をお持ちの利用者もおられ、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・馴染の物品を置いたり、四季の物・職員と一緒に作成した物を飾ったりしている。施設内の温度に関しては、職員が調節し快適に過ごして頂けるようにしている。居心地の良い空間作りを工夫している。	当ホームはユニットにより広さや生活環境が異なっているが、両ユニットが平面でつながっていることで、相互の交流も可能である。若宮ユニットについては、通路が長いことで利用者がホーム内を歩く機会が多く、歩行訓練にもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・共同生活場で気の合った利用者同士でお話されたり、テレビを観て過ごされている。その時々により、環境を整えるは配慮している。利用者の行動を抑制せず、本人の意思で共同生活場や居室で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室に写真を飾ったり、使い慣れた物を持って来て頂き居心地よく安心して生活できるように支援している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせて、家具類や様々な持ち込みが行われている方もおり、その方に合わせた居室づくりが行われている。また、居室によって、居室内の生活環境が異なっており、居室に合わせた対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・利用者の状況に合わせて、トイレの場所を分かり易く大きな字で表示するなど、安全で自立した生活が送れるように動線の確保、環境整備に努めている。		